

第1部

- ♪ 思い出に逢える夏 春畑 セロリ
夏は来ぬ、たなばた、うみ、浜辺の歌、富士山

- ♪ ぶらぶらの地図 より 春畑 セロリ
かもめからの招待状、アガサ・ホテルの屋下がり

- ♪ ひまわり H. マンシーニ
- ♪ 小象の行進
- ♪ ムーンリバー

- ♪ 見上げてごらん夜の星を いずみ たく

- ♪ セレナータマリンバーナ 外山 雄三

- ♪ チェロ組曲 第1番 ト長調 BWV1007 J. S. バッハ
プレリュード
アルマンド
クーラント
サラバンド
メヌエット1、2
ジーグ

第2部

- ♪ サマータイム G. ガーシュウィン

- ♪ 3つの前奏曲 G. ガーシュウィン
1番 Allegro ben ritmato e deciso
2番 Andante con moto e poco rubato
3番 Allegro ben ritmato e deciso

- ♪ ラ コンガ デ メディアノーチェ E. レクオーナ

- ♪ ベサメ ムーチョ C. ベラスケス
- ♪ カチート

- ♪ バルダリート A. ピアソラ

- ♪ リベルタンゴ

- ♪ ブエノスアイレスの夏

- ♪ オブリビオン

- ♪ 天使の死

演奏者プロフィール

マリンバ：明瀬 由武 AKASE Yoshitake

東京芸術大学音楽学部器楽科打楽器専攻卒業。各ラジオ・テレビに出演。ポピュラーの分野でも全国的に演奏活動を行う。NHK FMにて新実 徳英「For Marimba I」、西村 朗「ソロマリンバのための詩曲」他、数多くのマリンバ作品の初演をする。青年海外協力隊々員として中米コスタリカに派遣される。国立音楽院ソルフェージュ科教授、国立交響楽団打楽器奏者。在任中、国立劇場をはじめ各地にてリサイタルを行う。現在、東京・つくばをはじめ各地にて演奏活動を行っている。

CD「マリンバの贈り物～クリスマスの日に～」

CD「マリンバの贈り物パート2～星降る夜に～」

<http://homepage3.nifty.com/honyaku/y.akase/index.html>

ピアノ：高瀬 奈美 TAKASE Nami

武蔵野音楽大学器楽科ピアノ専攻卒業。在学中より打楽器、声楽などの共演者として活躍。現在各地にてコンサートの企画、演奏活動を行っている。2002年よりバイオリン、フルート、声楽などのゲストを迎えて「夜想曲シリーズ」を展開。また2008年よりソロシリーズ「ピアノ叙情詩集」をスタートさせている。

「つくば朝のサロンコンサート」メンバー。

CD「ソナタとインターリュード」

編曲者

西邑 由記子 NISHIMURA Yukiko

ひまわり、小象の行進、ムーンリバー

織田 英子 ORITA Eiko

見上げてごらん夜の星を、ベサメ ムーチョ、カチート

野田 雅巳 NODA Masami

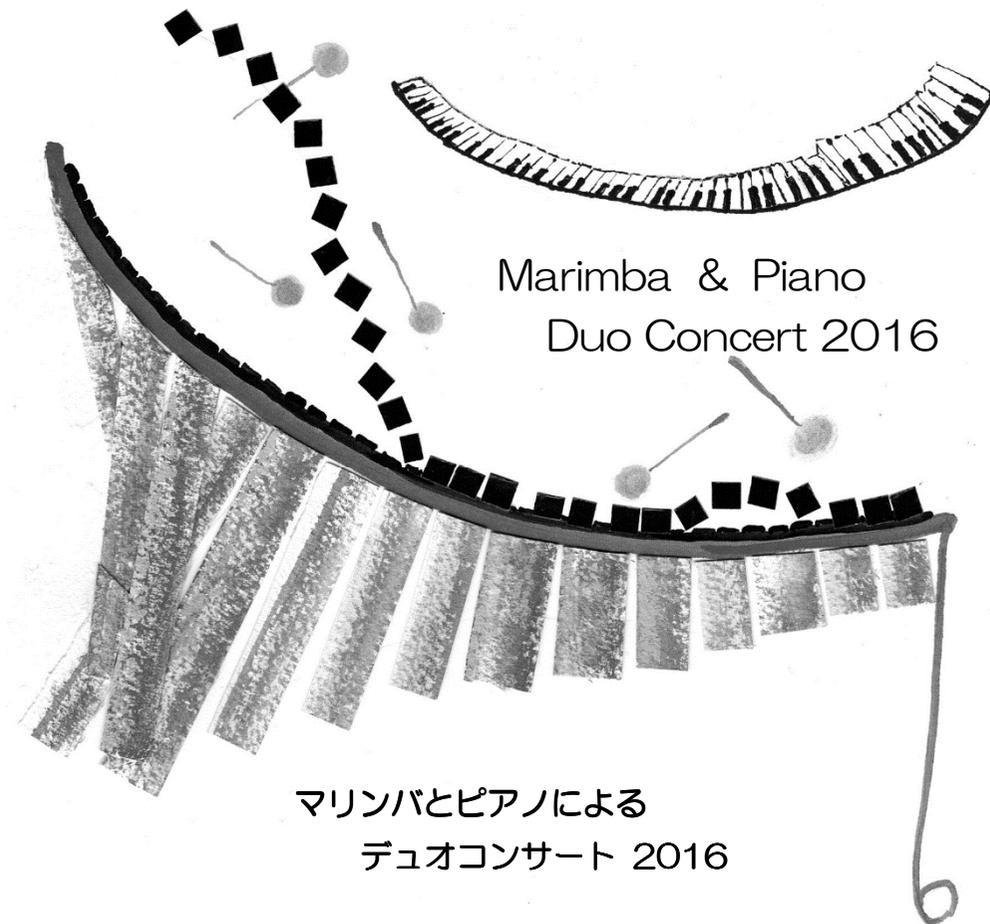
ラ コンガ デ メディアノーチェ、ピアソラ作品

今後の予定

2017年1月28日(土) ムジカーザ

ミックスマジックコンサート Vol.8

主催：久守文化基金



マリンバとピアノによる
デュオコンサート 2016

『 思い出に逢える夏 』

マリンバ 明瀬 由武

ピアノ 高瀬 奈美

つくば アルスホール

2016年6月25日(土) 2:00PM、6:30PM

第 1 部

♪ 思い出に逢える夏

春畑 セロリ

「夏は来ぬ」「たなばた」「うみ」「浜辺の歌」「富士山」

春畑セロリさんは、作曲、編曲、執筆、プロデュース、全国でのセミナーなど、精力的に活動をしている方です。

「思い出に逢える夏」は昨年夏にできあがり、今日が初演となります。

「心揺れる秋、心満ちる秋」「冬は暖炉のそばで」「春、芽吹きするとき」の3作と合わせて「マリンバで奏でる日本の四季」が3年がかりで完結しました。

世代が違っていても、誰もが口ずさめ、聴いて癒されるセロリさん仕立てのメロディーが「思い出に逢える夏」でもお聴きいただけます。

作・編曲者から

日本のメロディーを素敵な形で、素敵な音で語り継いでいきたいという明瀬さんの意図に強く共感し、マリンバとピアノのための作品を書いてきました。

自分が演奏できない楽器の曲を書くのはハードルが高いのですが、深く優しくあたたかいマリンバの音に想いを寄せながら、そして1曲1曲、日本人らしい歌心をかみしめながら音符を綴るのは、とても楽しい作業です。

今日も、その想いを明瀬さん、高瀬さん、そして聴いてくださる皆様に共有していただけるのが、なにより嬉しいです。

♪ ぶらぶーらの地図 より

春畑 セロリ

「かもめからの招待状」「アガサ・ホテルの昼下がり」

「ぶらぶーらの地図」は、自称「お気楽者、放浪癖あり」のセロリさんから生み出された、イタリアの旅をテーマにしたピアノ曲集です。2011年にピアニスト 関孝弘氏によって委嘱・初演され、その後、曲を加えて2013年に出版されました。

それぞれの曲に付けられた素敵なタイトルとポエムによって、わくわく、うっとりと思像力をかきたてられます。

♪ ひまわり、小象の行進

H. マンシーニ(1924~1994)

ムーンリバー

マンシーニ (Henry Mancini) はイタリア系のアメリカ合衆国の作・編曲家・ピアニスト・バンドリーダーです。特に映画音楽界の巨匠の一人として知られています。「いつも二人で」「シャレード」「ピンク・パンサー」「刑事コロンボ」のテーマなど数々の映画／ドラマの音楽を手掛け、グラミー賞、アカデミー歌曲賞を受賞しています。

「ひまわり」は「愛のテーマ」として、同名映画の中で随所に使われています。「小象の行進」は「ハタリ！」の挿入曲。「ムーンリバー」は「ティファニーで朝食を」の主題歌として知られています。

♪ 見上げてごらん夜の星を

いずみ たく(1930~1992)

1960年に初演された同名ミュージカルの劇中主題歌を1963年坂本九が歌って大ヒットし、日本レコード大賞作曲賞を受賞しました。作詞は永六輔。多くのアーティストにカバーされています。

♪ セレナータ マリンバーナ

外山 雄三(1931~)

N響の指揮者として、また「管弦楽のためのラプソディー」などの作曲家として有名な外山雄三氏が、1962年に東京マリンバグループのために作曲し、私のマリンバの師 田村拓男氏が初演しました。急一緩一急 の三つの楽章からなっています。

セレナータは夜、恋人の窓辺で歌われる恋の歌ですが、2楽章はまさにそういう情熱を感じさせます。そして、終曲のピアノパートはフラメンコギターを連想させます。

♪ チェロ組曲 第1番

J.S. バッハ(1685~1750)

ト長調 BWV1007

J.S.バッハ (Johann Sebastian Bach) は無伴奏チェロのための組曲を6曲作っています。その大部分は1717年-1723年に作曲されたと言われています。長い間、単純な練習曲として忘れられていましたが、1890年、パブロ・カザルスによって再発掘されて以降、チェリストのバイブル的な作品と言われるようになりました。

コントラバス、サクソフォン、チューバ、エレキギターなど、さまざまな楽器でも編曲され演奏されています。

今日は同じ低音域を持つマリンバでお聴きいただけます。

- プレリユード：Praeludium・・・4分の4拍子。分散和音が移り変わっていきます。
- アルマンド：Allemande・・・2分の2拍子。穏やかな曲調。
- クーラント：Courante・・・4分の3拍子。フランス語<走る courir>の語に由来する軽快な舞曲。
- サラバンド：Sarabande・・・4分の3拍子。重音を使った荘重な舞曲。
- メヌエット 1,2：Menuetto 1,2・・・4分の3拍子。中間の第2メヌエットはト短調。
- ジーグ：Gigue・・・8分の6拍子。急速な舞曲。

第2部

♪ サマータイム

G. ガーシュウィン(1898~1937)

ガーシュウィン (**George Gershwin**) は、ポピュラー音楽、クラシック音楽の両面で活躍し、アメリカ音楽を作り上げた作曲家とされています。彼は、ピアノ独奏と管弦楽のための「ラプソディーインブルー」、ミュージカル「ショーガール」、映画音楽「踊る騎士」、管弦楽曲「バリのアメリカ人」などをはじめ、39年の生涯の中で数多くの作品を残しています。

この曲は1935年オペラ『ボーギーとベス』のために作曲したアリアです。作詞はヘイワード (DuBose Heyward)。現在ではジャズのスタンダードナンバーとして知られ、また、ポップス、ロックなど幅広いジャンルで演奏されたり歌われたりしています。

♪ 3つの前奏曲

G. ガーシュウィン

この曲は1925年頃、ピアノのために「3つの前奏曲：**Three Preludes**」として作曲・初演され、その後さまざまな楽器のために編曲されています。今日はガーシュウィンと親交のあったハイフェッツ (**Jascha Heifetz**) によるヴァイオリン独奏用に編曲したものを演奏します。1番 チャールストンとタンゴをミックスした軽快な曲。2番 緩やかなブルース風。3番 アップテンポのブギー風 に書かれています。

♪ ラ コンガ デ メディアノーチェ

E. レクオーナ(1896-1963)

レクオーナ (**Ernesto Lecuona**) はキューバの伝説的な音楽家です。20世紀前半のキューバ楽壇で最も偉大な音楽家で、多方面にわたる作曲活動のかたわら、ピアニストとして、またバンドリーダーとして、世界的な演奏活動を繰り広げました。キューバ革命で嫌気がさしてスペインに永住したこともあり、彼の音楽はキューバだけでなくスペイン音楽の影響が大変色濃く出ているように感じます。

ポピュラー曲も書いており、特に「シボネー」「そよ風と私」などは今日いらしている年配の方はご存知ではないでしょうか。

「ラ コンガ デ メディアノーチェ：**La Conga de Media Noche**」の和訳は「真夜中のコンガ」です。遠くから聞こえてくる夜中の12時の鐘の音、コンガのリズムにのっての踊り。最初はおどおどと、徐々に興が乗って・・・いろいろな想像を膨らませてくれます。

♪ ベサメムーチョ、カチート

C. ベラスケス(1924~2005)

ベラスケス (**Consuelo Velázquez**) はメキシコの女性作曲家、ピアニストです。

日本では「ベサメムーチョ：Besame Mucho」「カチート：Cachito」ともうラテンのスタンダードナンバーとなっていますが、それ以外の曲はほとんど知られていません。

♪ バルダリート、リベルタンゴ

A. ピアソラ(1921~1992)

ブエノスアイレスの夏、オブリビオン、天使の死

ピアソラ (**Astor Piazzolla**) は、アルゼンチンの作曲家、バンドネオン演奏家です。

彼はそれまでの型にはまったアルゼンチンタンゴから脱却した形式、いわゆる『踊れないタンゴ』を書いたので、タンゴの革命家とされています。元来タンゴは踊りのための伴奏音楽であり、強いリズム性とセンチメンタルなメロディーをもつ展開の分かりやすい楽曲でした。ピアソラは、そこにポリフォニーやフーガといったクラシックの構造や、ニューヨークジャズのエッセンスを取り入れることで、独特の世界を作り出しました。彼の創造したジャンルは「**Nuevo Tango** /ヌエボ タンゴ/新タンゴ)」と呼ばれています。

・バルダリート：Vardarito・・・友人のタンゴバイオリンの第一人者 エルビーノ バルダに捧げた曲。1972年発表。

・リベルタンゴ：Libertango・・・リベルタンゴという単語は、「自由」libertad と「タンゴ」tango と合わせて作った造語。アルゼンチンの雰囲気嫌いに嫌気をさして、イタリアで演奏活動していたときの作品。1974年発表。

・ブエノスアイレスの夏：Verano Porteño・・・「ブエノスアイレスの四季」の中で最初に書かれた曲です。1965年発表。

・オブリビオン：Oblivi6n・・・これもピアソラの造語で、忘却・忘れ去るという意味です。1984年発表。

・天使の死：la Muerte del Angel・・・ピアソラの代表的な組曲「天使」の中の1曲。フーガで始まり、不協和音のアクセントが続く、大変スリリングな作品です。1962年発表。

編曲者：野田 雅巳さんから

今日のピアソラ作品は野田雅巳さんの編曲です。野田さんはピアソラの編曲について次のようなコメントを載せています。

『ピアソラ作品の編曲には一種独特の苦勞がある。ヒトコトで言うなら「血抜き」のむつかしさだ、なんて意味フメイですね。「血抜き」とは、演奏者が作品に自分自身の血を通わすことができるように、原曲からいったんタンゴの血を抜くこと。つまりピアソラたちタンゴ・ミュージシャンのそれぞれ1度きりの演奏力、即興性が欠かせない作品を、非タンゴ・ミュージシャンが楽譜を通して演奏しても魅力ある音楽——原曲とは違った価値のある音楽になるように編曲することだ。その血の抜き方、抜き具合のむつかしさ。』